

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月14日

事業所名 子ども発達未来塾のぞみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		今後、業務改善のための適切な意見集約のあり方等について検討していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			自己評価の内容を日常的に点検検討し継続的に改善が図れるようにしていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		報告文書として配布すると共に準備でき次第ホームページにて公開の予定です。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		任務や情勢に即して適切な研修情報の収集と実施に努めています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用開始時の面談を中心に日頃の情報交換の中でニーズを把握しつつ実施しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		健康等情報カードおよびアセスメント票を用いて実施しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		役割分担の上実施しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		得意分野を生かし充実を図っています。	個別化体系化をさらに深めるようにしていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		季節や興味などに応じて内容を充実させるようにしています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		幅広い活動に取り組めるように配慮しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援者や児童の活動場所や内容がわかるよう表にして貼り出すなどしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		児童の心身状況その他の情報共有に努め支援に支障の出ないようにしています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳やメモに記録するなどしています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		適宜適任者が参加しています。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		情報共有、情報交換、連絡調整を適切に行いスムーズな運営に努めています。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		保護者からの情報として医療機関の連絡先を把握できています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			契約時の情報を中心に関係機関との関係強化に努めています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		対象の事例はありませんが事例があれば対応できるように努めています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			交流の機会は充実しており本事業所の特徴としてアピールしていきます。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○			機会に恵まれていませんでしたが積極的に情報収集に努め参加機会を作るようにします。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時やメール、電話などで情報共有に努めています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			事業所として実施できていませんが研修情報等があれば情報提供し支援向上のきっかけとしていきます。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				こちらから積極的に伺う姿勢を強めていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			まず保護者の意向の把握に努めます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			担当者や体制について説明書に記載し周知し、また、日常の中での改善のご要望にも都度対応しています。	気軽に言っただけの雰囲気作りをするとともによりよいサービスにつながる方法などについて検討実施していきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		お知らせとして適宜通知しています。	
	35	個人情報に十分注意している	○			書類は鍵付きロッカーに入れて保管し外に漏れないようにしています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			丁寧な説明や分かりやすい表示を行うようにしています。	配慮について今後も利用者、保護者、支援者の中で深め支援につなげられるようにしていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		放課後児童クラブとの合同を含め実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	身体拘束の必要なケースはないがあれば組織的が可能です。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	保護者の健康等情報カードなどに基づき対応しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	作成事例はありましたが蓄積されず共有が不十分でした。